

令和6年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

令和7年9月

福 井 県 教 育 委 員 会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	令和6年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	令和7年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和6年度実施）	13
6	令和7年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和6年度実施）	15
V	令和6年度の教育関係施策の取組実績	
1	教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果および 達成目標の進捗状況	19
2	主要事業の実施成果	28
3	教育に関する大綱および教育振興基本計画の改定について	40
VI	有識者からの意見	41

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

〔 参 考 〕

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「令和6年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）

2 点検・評価方法

（1）点検・評価報告書の作成

教育委員会において点検・評価報告書案を作成

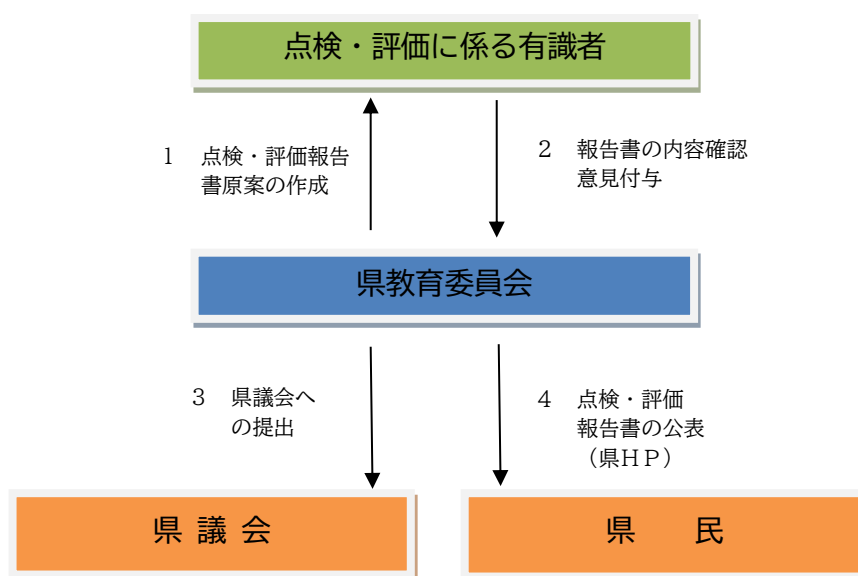
（2）点検・評価報告書の確認、意見付与

有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および意見付与

（3）点検・評価結果の公表

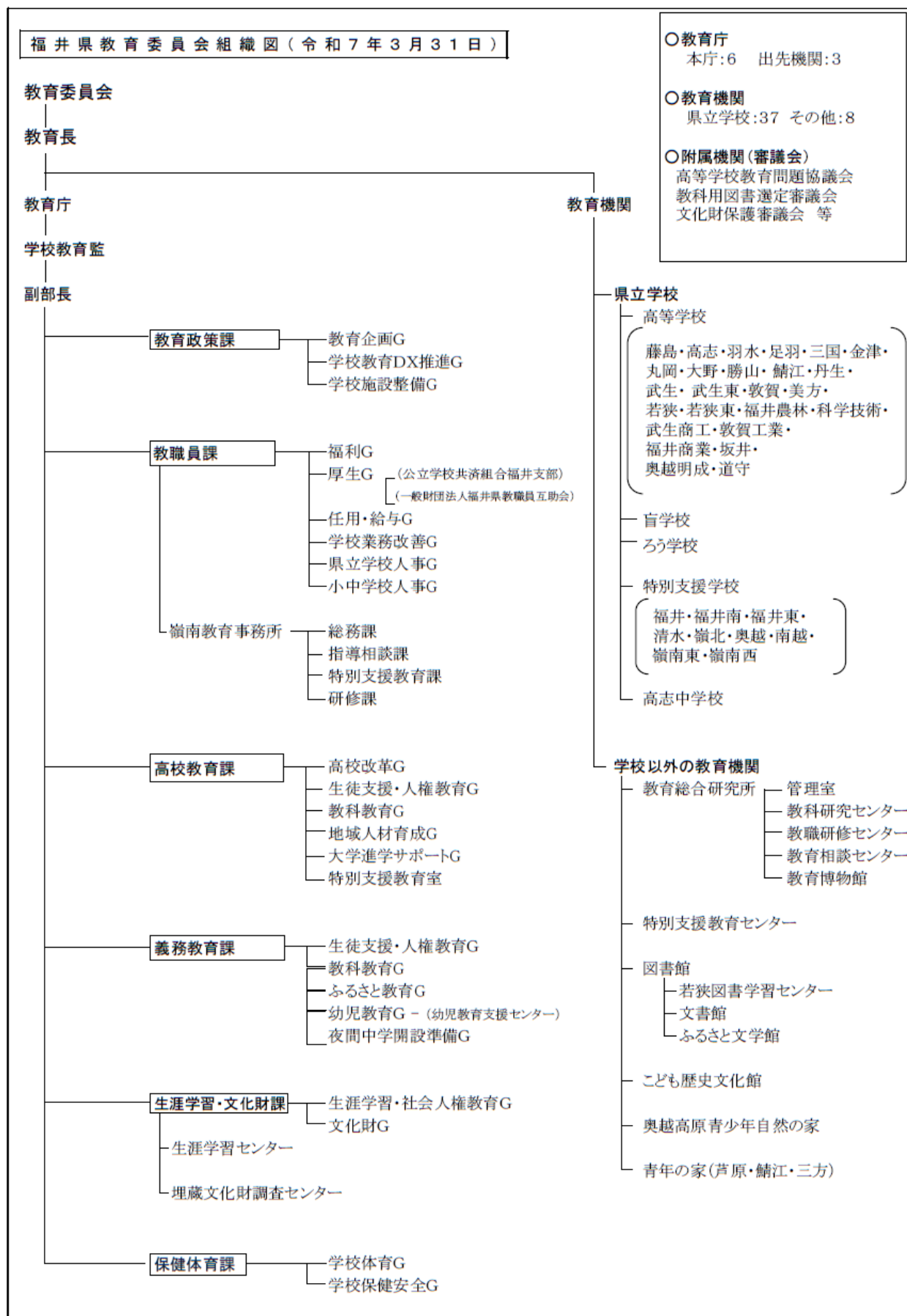
点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表

〔点検・評価フロー〕



Ⅲ 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	3,275,321	2,069,970	2,069,970	0	63.2	100.0
教職員課	16,231,391	16,225,262	16,225,167	96	99.9	99.9
高校教育課	157,912	149,213	129,243	19,970	81.8	86.6
義務教育課	52,086	56,842	56,842	0	109.1	100.0
生涯学習・文化財課	190,501	142,911	142,911	0	75.0	100.0
保健体育課	65,086	62,146	62,146	0	95.5	100.0
計	19,972,297	18,706,345	18,686,279	20,066	93.6	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	13,297,397	11,754,993	827,672	714,732	88.4
教職員課	70,920,280	70,385,570	8,335	526,375	99.2
高校教育課	3,363,044	3,289,543	5,150	68,351	97.8
義務教育課	265,072	252,355	0	12,717	95.2
生涯学習・文化財課	1,425,592	1,163,012	240,119	22,461	81.6
保健体育課	209,959	192,776	0	17,183	91.8
計	89,481,344	87,038,249	1,081,276	1,361,819	97.3

Ⅳ 令和6年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(令和6年4月1日～令和6年5月18日)

	氏 名	職 業
教育長	豊 北 欽 一	
委員（教育長職務代理者）	南 部 隆 保	会社役員
委員	原 公 樹	僧侶
委員	山 本 直 子	法人役員
委員	森 下 典 子	元教員
委員	横 井 康 孝	会社役員

(令和6年5月19日～令和7年1月9日)

	氏 名	職 業
教育長	藤 丸 伸 和	
委員（教育長職務代理者）	南 部 隆 保	会社役員
委員	原 公 樹	僧侶
委員	山 本 直 子	法人役員
委員	森 下 典 子	元教員
委員	横 井 康 孝	会社役員

(令和7年1月10日～令和7年3月31日)

	氏 名	職 業
教育長	藤 丸 伸 和	
委員（教育長職務代理者）	原 公 樹	僧侶
委員	山 本 直 子	法人役員
委員	森 下 典 子	元教員
委員	横 井 康 孝	会社役員
委員	小 泉 綾 子	会社役員

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・開催回数 17回
- ・附議事項 62件

○第1175回（令和6年4月24日（水））

- ・「福井県文化振興プラン（仮称）」の策定について
- ・福井県指定文化財の指定について
- ・福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
- ・いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
- ・福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・福井県知事の補助職員に対する福井県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則の一部改正について
- ・令和6年度学校給食文部科学大臣候補者の推薦について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1176回（令和6年5月16日（木））

- ・福井県社会教育委員の委嘱について
- ・福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

○第1177回（令和6年6月13日（木））

- ・令和6年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
- ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について
- ・福井県社会教育委員の委嘱について

○第1178回（令和6年7月8日（月））

- ・福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・令和7年度福井県立高等学校入学者選抜における推薦入学者選抜の実施校について
- ・令和7年度福井県立高等学校入学者選抜における特色選抜の実施校および実施種目・領域について
- ・令和7年度福井県立高志中学校入学者選抜に関する実施要項の制定について
- ・夜間中学設置場所について

○第1179回（令和6年7月25日（月））

- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1180回（令和6年7月30日（火））

- ・福井県条例等の横書き化に伴う関係規則等の制定について

○第1181回（令和6年8月28日（水））

- ・令和5年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
- ・令和6年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
- ・福井県立恐竜博物館運営協議会委員の任命について
- ・令和7年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について

○第1182回（令和6年9月26日（木））

- ・令和7年度福井県公立学校教員採用選考試験採用内定者の決定について
- ・福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について

○第1183回（令和6年10月15日（火））

- ・令和7年度福井県立学校入学者募集定員について
- ・令和7年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに令和7年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について

○第1184回（令和6年10月28日（月））

- ・附議事項なし

○第1185回（令和6年11月22日（金））

- ・福井県立若狭歴史博物館運営協議会委員の任命について
- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・令和7年度教職員人事異動方針について
- ・令和7年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
- ・教職員の懲戒処分について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1186回（令和6年12月26日（木））

- ・令和7年度福井県立学校寄宿舎指導員・実習助手・技能労務職員採用選考試験の採用内定者の決定について
- ・令和7年度福井県公立学校再任教職員採用内定者の決定について
- ・福井県文化財保護審議会委員の任命について
- ・令和6年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1187回（令和7年1月16日（木））

- ・令和6年度ふくい優秀教職員表彰の被表彰者の決定について
- ・教育職員免許に関する規則の一部改正について

○第1188回（令和7年2月5日（水））

- ・福井県立夜間中学の指名について
- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
- ・福井県立図書館規則の一部改正について
- ・福井県立恐竜博物館の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について
- ・教職員の懲戒処分について

○第1189回（令和7年3月5日（水））

- ・福井県教職員免許状再授与審査会規則の制定について
- ・令和7年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について

○第1190回（令和6年3月14日（金））

- ・福井県教育庁職員等の旅費取扱規則の一部改正について
- ・福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・授業名人の任命について
- ・令和7年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について

○第1191回（令和7年3月27日（木））

- ・第4期教育振興基本計画について
- ・第4次子どもの読書活動推進計画について
- ・個人情報の保護に関する法律施行規則の改正について
- ・令和7年4月1日付け組織改正に伴う福井県教育委員会行政組織規則の一部改正について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容（参加行事等）
令和6年 4月24日	授業名人任命式、第1175回教育委員会
5月16日	第1176回教育委員会
5月24日	福井県市町教育委員会連絡協議会総会
6月 3日	第1回ふくいの教育振興推進会議
6月10日	学校訪問（美方高校、奥越明成高校、勝山市立勝山南部中学校）
6月12日	学校訪問（越前市武生西小学校）
6月13日	第1177回教育委員会
6月14日	学校訪問（武生商工高校、敦賀市立中郷小学校）
6月17日	学校訪問（坂井高校）
7月 8日	第1178回教育委員会、学校訪問（福井特別支援学校）
7月10日	学校訪問（福井農林高校、福井市明倫中学校）
7月18日、19日	全国都道府県教育委員会連合会第1回総会等
7月25日	第1179回教育委員会
7月30日	第1180回教育委員会
8月 1日、2日、5日、 6日、7日	教員採用試験
8月19日	総合教育会議
8月24日	第4回全国高校生プレゼン甲子園
8月28日	第1181回教育委員会
9月 6日	福井県教育委員会と福井県公安委員会との意見交換
9月26日	第1182回教育委員会
10月 9日	童謡で伝える会
10月15日	第1183回教育委員会
10月21日	教育功労者表彰式
10月28日	第1184回教育委員会、管理職任用選考試験
10月30日	管理職任用選考試験
10月31日	第2回ふくいの教育振興推進会議、管理職任用選考試験
11月 1日	管理職任用選考試験
11月 7日	学校訪問（大野市有終西小学校）、社会教育施設訪問（三方青年の家）
11月 8日	学校訪問（鯖江高校、福井市杜南小学校）
11月11日	学校訪問（嶺南東特別支援学校）
11月12日	学校訪問（おおい町立大飯中学校）
11月14日、15日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会
11月19日	学校訪問（あわら市芦原中学校）

11月22日	学校訪問（鯖江市中河小学校）、第1185回教育委員会
12月14日	ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会
12月26日	第1186回教育委員会
令和7年 1月16日	第1187回教育委員会
1月20日	第3回ふくいの教育振興推進会議
1月27日	全国都道府県教育委員会連合会第2回総会等
2月 1日	福井ふるさと教育フェスタ
2月 5日	第1188回教育委員会
2月15日	武生商工高校新体育館・商業棟落成式
3月 5日	第1189回教育委員会、令和6年度ふくい優秀教職員表彰式、福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰式
3月12日	丸岡高校「桜霞寮」開寮式
3月14日	第1190回教育委員会
3月17日	美方高校「清明寮」開寮式
3月27日	第1191回教育委員会
3月31日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障がい児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	6. 6.14 6. 9.20 6. 12.11
福井県教科用図書選定審議会	18	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	6. 4.25 6. 5.30 6. 6. 5
福井県文化財保護審議会	16	3	会長・副会長の選出について 令和6年度の調査計画について 福井県指定文化財の指定について	審議・答申・協議・報告	6. 5.20 7. 1.14 7. 3.27

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（令和6年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	34	128	9	0	32	203
中学校	42	118	2	0	16	178
高等学校	51	183	0	2	38	274
特別支援学校	3	25	44	0	7	79
幼稚園	2	72	97	0	4	175
養護教員	0	21	4	0	7	32
栄養教員	0	6	0	0	0	6
自立教科等	0	0	0	0	2	2
合 計	132	553	156	2	106	949

(2) 文化財の指定状況

令和6年度においては、新たに県指定文化財が9件指定されました。

<指定文化財の現状>

令和7年3月31日現在

区 分		国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	備 考
		国 宝 特 別	重 文 国指定					
有 形 文化財	建造物	2	28			254	30	
	絵 画		14				87	
	彫 刻		36				85	
	工芸品	3	8			1	36	
	書跡・典籍・古文書	1	16				22	
	考古資料		5				16	
	歴史資料		3				8	
	計	6	110			255	284	
無 形 文化財	芸 能							
	工芸技術		2				4	
	計		2				4	
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	11	
	無形民俗文化財		5		12	1	65	
	計		6		12	2	76	
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29	
	名 勝	1	14			2	7	
	天然記念物	4	17			1	32	
	名勝天然記念物		1					
	計	6	56			3	68	
文化的景観				3				
重要伝統的建造物群保存地区				3				
選定保存技術				1				
合 計		12	174					
		186		7	12	260	432	

(3) 銃砲刀剣類の登録状況（令和6年度）

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等を次のとおり行いました。

登録証交付 85 件
登録証再交付 9 件
所有者変更 188 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

19法人（令和7年3月31日現在）

（公益財団法人10 一般財団法人8 一般社団法人1）

5 令和7年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和6年度実施）

(1) 県立高等学校

課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次学力検査合格者のうち、帰国子女等受験者と追検査受験者を除く教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学者選抜	555(551)		555(551)
特 色 選 抜	479(437)		79(437)
外国人生徒等 特別選抜	15(13)		15(13)
連携型中高一貫 教育校入学者選抜	84(84)		84(84)
一般入学者選抜	3,176(3,231)	155(200)	3,331(3,431)
第2次募集	40(60)	22(23)	62(83)
計	4,349(4,376)	177(223)	4,526(4,599)
募集定員	4,531(4,663)	350(350)	4,881(5,013)
充足率	96.0%(93.8%)	50.6%(63.7%)	92.7%(91.7%)

※第1次学力検査によるものには追検査の合格者数を含む。

表2 教科別の平均点

	選択問題A	選択問題B
英 語	34.3(36.2)	57.8(62.6)
数 学	44.1(44.9)	63.6(63.7)
	共通	
国 語	61.5(63.7)	
社 会	56.5(47.2)	
理 科	53.4(54.3)	
総 点	189.4(188.0)	317.3(315.2)

※英語および数学は大問４～６のうち１～２問を次の２種類の選択問題として実施

A：基礎力を問う問題 【選択した合格者 ９１８人】

B：記述・論述の割合が多い問題 【選択した合格者 ２，２５３人】

(２) 県立中学校

平成２７年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表３のとおりです。また、適性検査等の結果は表４のとおりです。

表３ 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
９０	２７３	２７０	９０

表４ 適性検査等の結果

	配 点	平均点
適性検査Ⅰ	１００	３７．５
適性検査Ⅱ	１００	３２．２
適性検査Ⅲ	１００	５５．２
面 接	５０	３２．９
合 計	３５０	１５７．８

6 令和7年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和6年度実施）

第1次選考

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和6年6月29日（土） 一般・教職、教科等専門（小学校、中学技術、高校各科、養護教諭、栄養教諭）	福井県立藤島高等学校 （福井市文京 2 丁目 8-30） （公益財団法人）都道府県センター （東京都千代田区平河町 2-6-3） 福井市春山小学校【中高音楽実技】 （福井市文京 3 丁目 13-1）
令和6年6月30日（日） 教科等専門（中高一括、特別支援学校）	

第2次選考 および 特別選考

試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和6年8月1日（木） 【第2次選考】適性検査、小論文 （※適性検査はオンライン実施） 【特別選考】 令和7年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 教育エキスパート特別選考 個人面接等	福井県立藤島高等学校 （福井市文京 2 丁目 8-30）
令和6年8月1日（木）～2日（金） 8月5日（月）～7日（水） 【第2次選考】個人面接	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保および選考過程の透明性・公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

＜平成18年度から実施＞

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

＜平成19年度から実施＞

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

＜平成20年度から実施＞

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

<平成21年度から実施>

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

<平成23年度から実施>

- ・スポーツ特別選考の実施

<平成25年度から実施>

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

<平成27年度から実施>

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
③グローバル教育特別選考

<平成28年度から実施>

- ・特別選考の見直し①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
専門教育分野
英語教育分野

<令和元年度から実施>

- ・障がい者特別選考の受験資格拡大
- ・介護を理由に退職した教員の再採用を実施

<令和2年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度を導入
（他都道府県国公立学校正規勤務経験者または県内国公立学校勤務講師対象）
- ・第1次選考の一般教養と教職専門の筆記試験を一般・教職に一本化
- ・第2次選考の「集団討論」を廃し「個人面接」を2回に変更

<令和3年度から実施>

- ・スポーツ・芸術特別選考を教育エキスパート特別選考に移行

<令和4年度から実施>

- ・加点制度の拡充
（①複数教員免許状所持による加点、②司書教諭資格者による加点）

<令和5年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度の拡充
（県内講師等経験者（60月以上経験者）対象）
- ・大学3年時第1次選考の導入
- ・「東京会場」の設置（※第1次選考）

<令和6年度から実施>

- ・加点制度の対象となる資格に情報関連資格を追加
（Microsoft Office Specialist(MOS)、ITパスポート、基本情報技術者試験）

- ・大学院修士課程修了時特別選考の受験資格の拡充
受験する職種・校種・教科等の教員免許状を年度末までに取得できない場合においても受験できるように受験資格を拡充
- ・チャレンジ第1次選考の導入
「大学3年時第1次選考」の受験対象の拡充に伴い、名称を変更

○ 受験者に対する情報の提供

<平成20年度から実施>

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）の実施
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
1次選考および2次選考における筆記試験、実技試験、作文および面接の点数
- ・筆記試験、実技試験、作文および面接の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者および最終合格者について、可否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

<平成21年度から実施>

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例および設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者のうち希望者に、筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

<平成26年度から実施>

- ・不合格者全員に筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

<平成20年度から実施>

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検を実施
- ・民間有識者による選考手順や選考内容の点検および抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合を実施

<平成21年度から実施>

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号を使用

<平成24年度から実施>

- ・電子申請による受付を導入

<平成26年度から実施>

- ・一般教養試験において、マークシート方式を導入

<平成27年度から実施>

- ・小学校筆記試験において、外国語のリスニングテストを導入

- ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入
- <令和2年度から実施>
- ・小学校の試験において、外国語リスニングおよび実技試験を廃止
 - ・外国語資格における加点対象を拡大
- <令和5年度から実施>
- ・出願手続きを電子申請に一本化
- <令和6年度から実施>
- ・出願手続きに必要な各種書類を電子化し、紙媒体での提出から電子データによる提出に変更（出願書類のペーパーレス化）
 - ・第1次選考の筆記試験の適正化（内容の精選、問題数、難易度、時間等の見直し）

V 令和6年度の教育関係施策の取組実績

1 教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果および達成目標の進捗状況

方針1：学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成

- ・ 福井県学校教育DX推進協議会における市町教育委員会と連携したタブレット端末の活用や共同調達の協議、およびICT教育教員プロジェクトチームにおけるデジタル教科書の活用法の研究等により、学校教育DXを推進〔教育政策課〕
- ・ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けている4校にて、理数情報系の教育を充実し、科学者・技術者を目指す才能ある人材の発掘・育成を推進。また、9校がDXハイスクールの採択を受け、ICTを活用した文理横断的で探究的な学びを強化し、デジタル等成長分野を支える人材を育成〔高校教育課〕
- ・ 地域の人々や企業等と協働して自らの興味関心事への学びを深める探究学習を推進「地域コーディネーター」の配置、「ふくい探究学習サポート企業」の募集（R5～）等を実施し、学校の取組みを促進〔高校教育課〕
- ・ 福井県の現状・課題や地域政策について学び、「地域の未来」と「自らの将来」を結び付けて考える「地域デザイン講座」を開催し、ライフデザイン教育を推進〔高校教育課〕
- ・ 地域産業の担い手育成を目的とした、文部科学省の「マイスター・ハイスクール」事業において、民間人教頭を招聘し新技術やDX等の産業構造の変化に対応した職業人材育成と魅力あるカリキュラムを実施。また、「マイスター・ハイスクール普及促進事業（先進的取組型）」において、坂井高校と武生商工高校を拠点校とし、マイスター・ハイスクール事業実績のある若狭高校の実践等も含めて、これまでの経験や、ノウハウ、成功事例を域内の専門高校に普及〔高校教育課〕
- ・ 県立高校2校で地域みらい留学による全国募集を実施（R5～）するとともに、合わせて新たな寮を整備し、県外生徒と県内生徒との協働、地域イベントへの参加等により高校と地域の活性化を推進〔高校教育課、教育政策課〕
- ・ 「引き出す・楽しむ教育」を推進するため、各小中学校が重点的に取り組むテーマを設定し実践するとともに、教員、関係機関による意見交換会、テーマに応じた研修等を開催（R2～）〔義務教育課〕
- ・ 小中学生の理系分野への興味関心を高めるため、小学生向けのサイエンスショーや中学生向けの理系分野に関するキャリア教育を実施（R5～）〔義務教育課〕

〔達成目標〕

□ 内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
授業がわかる 児童生徒の割合 (全国学力・学習 状況調査)(高校 生学習状況調査)	小学校 国語 90.6%	－	90.2%	89.7%	91.5%	91.9%	90%
	算数 88.5%	－	87.7%	85.9%	87.4%	87.0%	90%
	中学校 国語 84.7%	－	85.3%	88.2%	86.5%	87.5%	85%
	数学 78.5%	－	74.6%	81.2%	78.3%	77.7%	80%
	高 校 国語 85.5%	87.10%	84.9%	86.5%	87.5%	87.9%	90%
	数学 75.1%	77.00%	74.2%	76.5%	76.3%	74.2%	80%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
課題の解決に向 け、自分で考 え、自分から取 り組む児童生徒 の割合(全国学 力・学習状況調 査)	小学校： 80.5%	－	81.30%	79.70%	81.8%	86.0%	85%
	中学校： 78.2%	－	81.50%	82.30%	83.8%	84.2%	80%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
学習者用コンピ ュータ1台当た りの児童生徒数 (学校における教 育の情報化の実態 等に関する調査)	小学校： 6.7人/台	6.4人/台	1.3人/台	0.9人/台	0.9人/台	1.1人/台	1人/台
	中学校： 4.8人/台	5.0人/台	1.3人/台	0.9人/台	0.8人/台	1.2人/台	1人/台
	高 校： 3.7人/台	3.7人/台	0.8人/台	0.8人/台	0.8人/台	0.8人/台	3人/台
	[2018]	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
教員が授業中に ICT を活用して 指導する能力 (学校における教 育の情報化の実態 等に関する調査)	71.8% [2018]	70.50% [2019]	69.20% [2020]	73.7% [2021]	78.8% [2023]	78.8% [2023]	85%
園内リーダー 認定者がいる 園の割合	84% [2018]	86% [2019]	86% [2020]	89% [2021]	90% [2023]	93% [2024]	90%

方針２：適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進

- ・第４４回近畿高等学校総合文化祭福井大会を生徒主体で開催し、生徒実行委員会を中心に総合開会行事や各部門の企画運営、ポスター、チラシの作成などをする中で、伝統文化の継承や新しい芸術文化の創造を促進〔高校教育課〕
- ・福井大学との連携により「合同競技体験会」や「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催し、子どもの可能性を引き出しながら、有望なジュニア選手を発掘・育成〔スポーツ課〕
- ・持続可能な子どものスポーツ・文化芸術活動の機会確保と、教員の負担軽減を両立するため、中学生の休日部活動の段階的な「部活動地域移行」を推進。休日に活動する約 740 部活動のうち、R6 末までに約 350 部活動が地域に移行〔保健体育課、義務教育課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
県立音楽堂で本物の文化芸術を体験する子どもの数	16,521 人 [2018]	23,364 人 [2019]	7,207 人 [2020]	12,382 人 [2021]	8,312 人 [2023]	6,741 人 [2024]	17,000 人
競技スポーツの全国大会での上位入賞数（１～３位） （福井県スポーツ協会正加盟競技の大会）	290 件 [2018]	130 件 [2019]	188 件 [2020]	189 件 [2021]	249 件 [2023]	249 件 [2023]	100 件
公認スポーツ指導者新規登録数	87 名 [2018]	94 名 [2019]	90 名 [2020]	350 名 [2021]	451 名 [2023]	451 名 [2023]	100 名

方針３：豊かな心、健やかな体の育成

- ・青少年教育施設や県自然保護センター等の近隣施設、野外教育活動実施団体等が連携し、自然体験や環境保全を学ぶプログラムによる「アウトドア教育」を推進〔生涯学習・文化財課〕
- ・わくわく読書活動応援事業を実施し、県が選定した「推奨図書」を活用した企画への支援を行うとともに、学校図書館スーパーバイザーによる研修、助言、ワークショップ、作家等によるトーク等を実施することにより子どもの読書習慣を形成〔生涯学習・文化財課〕

- ・楽しみながら運動するきっかけ作りのためのサイトとして、学校でも家庭でも楽しみながら自分の運動記録を入力できるサイト（「はぴりゅうスポーツ広場」）を活用し、小学生の運動時間を増加
〔保健体育課、義務教育課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 84.3%	-	80.60%	82.50%	85.80%	85.40%	85%
	中学校 78.7%	-	78.10%	81.80%	83.10%	86.00%	80%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
ふだん読書をしていない小・中・高校生の割合 (全国学力・学習状況調査、高校生学習状況調査)	小学校 15.5%	-	23.60%	25.90%	24.60%	-	15%以下
	中学校 32.1%	-	36.50%	37.70%	37.80%	-	30%以下
	高 校 43.8% [2019]	45.80% [2020]	45.00% [2021]	45.00% [2022]	46.30% [2023]	47.20% [2024]	40%以下
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）	小学校 91.7%	-	89.00%	90.30%	90.80%	91.30%	93%
	中学校 87.8%	-	84.45%	85.30%	84.86%	86.20%	89%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
朝食を毎日食べている児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 88.4%	-	96.00%	95.90%	95.60%	95.10%	100%
	中学校 84.7%	-	94.70%	94.20%	93.10%	93.20%	100%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	

方針４：国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成

- ・受験料を全額補助し、GTEC を中学３年生 6,864 名が受験。結果分析を行い、生徒の英語力・学習意欲の向上と教員の授業改善のため、動画を配信するとともに、県内５ブロックにて研修を開催。各校の英語科教員１名以上が参加。（H28～R1：英語検定、R2～：GTEC）
〔義務教育課〕
- ・文部科学省をはじめ新たな協賛・後援を受け、６～８月に「全国高校生プレゼン甲子園」を開催。地域ブロック大会を導入し、全国から 755 チーム（県内 319、県外 436）、124 校（県内 22、県外 102）が参加。（R3～）
〔高校教育課〕

- ・タブレット端末の活用など、A L Tによるスピーキングテストを充実し、中学生のスピーキング力・リスニング力を向上
〔義務教育課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
英検3級相当以上の英語力を持つ中学3年生の割合（英語教育実施状況調査）	61.2% [2018]	61.40% [2019]	- [2020]	85.8% [2021]	83.8% [2023]	79.8% [2024]	65%
英検準2級相当以上の英語力を持つ高校3年生の割合（英語教育実施状況調査）	56.0% [2018]	58.40% [2019]	- [2020]	59.6% [2021]	61.1% [2023]	61.2% [2024]	60%
スピーキングテストおよびライティングテストを実施している学校の割合（英語教育実施状況調査）	中学校 95.0%	91.90%	-	100%	100%	-	100%
	高 校 53.7%	55.80%	-	52.2%	74.1%	71.3%	80%
	[2018]	[2019]	[2020]	[2021]	[2023]	[2024]	

方針5：特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備

- ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置を充実し、専門家の視点から子どもの相談に応じられる体制を整備
〔義務教育課〕
- ・障がいの有無に関係なく、児童生徒が同じ場所で継続的に一緒に教育を受ける機会を保障するため、インクルーシブな学校運営のモデル事業を実施
〔高校教育課〕
- ・校内の教室とは別の部屋に支援員を配置する校内サポートルーム支援員事業を実施し、不登校児童生徒や不登校の兆しのある児童生徒を支援
〔義務教育課〕
- ・足羽高校、武生商工高校、武生高校定時制に日常会話を補助するコミュニケーションサポーターを配置、日本語能力検定の検定料を補助
〔高校教育課〕
- ・義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方、不登校などの事情により、十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、本国や日本で義務教育を修了していない外国籍の方などの義務教育を受ける機会を保障するための夜間中学（県立若杉中学校）の設置を準備
〔義務教育課〕
- ・外国人児童生徒等教育連絡協議会を年3回実施するとともに、日本語指導アドバイザーによる相談支援を7回行い、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援体制を充実（R4～）
〔義務教育課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
通常の学級で個別の教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒のうち、作成された割合 (特別支援教育体制整備状況調査)	81.3% [2019]	84.30% [2020]	86.90% [2021]	91.10% [2022]	92.70% [2023]	92.70% [2023]	90%
特別支援学校教諭免許状を有する特別支援学級担当教員の割合(学校基本調査)	57.5% [2019]	56.30% [2020]	53.40% [2021]	55.10% [2022]	57.0% [2023]	54.90% [2024]	60%
学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 88.4%	—	87.50%	88.70%	87.80%	87.50%	90%
	中学校 84.9%	—	84.30%	87.30%	84.90%	87.40%	85%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
学校内外の機関等で相談・指導を受けていない不登校児童生徒の割合(児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)	小学校 3.1%	8.00%	8.66%	8.90%	10.70%	10.70%	低下させる
	中学校 9.1%	10.60%	8.29%	8.50%	15.80%	15.80%	
	高 校 14.1%	8.20%	10.20%	9.87%	9.18%	9.18%	
	[2018]	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2022]	

方針6：ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

- ・児童生徒が自らの地域を探究し、地域の魅力を発信する活動を推進するため、「福井ふるさと教育フェスタ」を開催。ふるさと学習の展示・発表や関連事業の優秀作品や入賞者を表彰(R1～)〔義務教育課〕
- ・「ふるさと福井CMコンテスト」を開催し、112作品の応募があり、「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」を開催し22チームが応募。「ふるさとの学び特別賞」として小中学校計20校を表彰(R3～、「ふるさとの学び特別賞」はR4～)〔義務教育課〕
- ・職業系高校において、地域の産業や企業について学ぶ本県独自の共通科目「ふくいの産業」を17回実施。これらの教材動画をアーカイブ化し、動画をデジタル教材として活用(R3～)〔高校教育課〕
- ・こども歴史文化館で紹介中のふくいの先人(歴史上の人物)や、展示について検索できるシステム「これきサーチ」公開し、小中学生が校外での調べ学習を行う際等に利用〔生涯学習・文化財課〕

- ・文化財修理の適切な実施と、所有者応援の体制を構築する「福井の文化財を未来へプロジェクト」を開始。技術者向け研修会に計 58 人が参加。敦賀市西福寺と福井市大安禅寺で文化財をデジタルアートで演出するイベントを開催し、延べ 1,010 人が参加（R5～）
〔生涯学習・文化財課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小学校 58.7%	-	55.80%	54.90%	-	-	60%
	中学校 44.7%	-	47.10%	46.30%	-	-	45%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
将来の夢や希望（目標）を持っている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査、高校生学習状況調査）	小学校 88.4%	-	82.90%	83.20%	83.90%	85.30%	90%
	中学校 74.2%	-	71.20%	70.30%	68.70%	68.90%	75%
	高 校 73.5%	75.90%	78.10%	75.60%	74.70%	74.90%	75%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
県内企業に就職した高卒者の 3 年以内の離職率	34.9% [2018]	33.5% [2019]	32.7% [2020]	34.80% [2021]	35.40% [2022]	36.00% [2023]	低下 させる
県内高卒生が県内に就職した割合（新規高等学校卒業者の就職状況に関する調査）	91.6% [2019]	91.27% [2020]	90.76% [2021]	90.43% [2022]	91.12% [2023]	91.12% [2023]	9 割を 維持
文化財出前授業・講座の参加者数	—	721 人 [2020]	617 人 [2021]	846 人 [2022]	926 人 [2023]	580 人 [2024]	1,000 人 （累計）

方針 7：生涯にわたる学びの支援

- ・SDGs の目標に向けて、地域清掃や環境学習、世代間交流事業を各団体（海洋少年団、壮年団、子ども会、ガールスカウト、ボーイスカウト、「小さな親切」運動）が実施し、31 件・約 1,700 人が参加（R3～）
〔生涯学習・文化財課〕
- ・青少年教育施設を活用した首都圏の子どもたちとの交流事業を実施し、子どもの自主性・協調性を育成
〔生涯学習・文化財課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
福井ライ フ・アカデ ミー受講者 の満足度	—	95% [2020]	96% [2021]	97% [2022]	96% [2023]	97.5 [2024]	80%
社会教育士 の資格を取 得した者の 数	—	44 人 [2020]	49 人 [2021]	39 人 [2022]	20 人 [2023]	18 人 [2024]	80 人 (累計)
県立図書館 の年間貸出 冊数	949,077 冊 [2018]	816,079 冊 [2020]	885,842 冊 [2021]	874,344 冊 [2022]	821,377 冊 [2023]	821,377 冊 [2023]	95 万冊

方針 8：新たな時代を見据えた教育環境の整備

- ・幼児期の「遊び」から「学び」の基礎を培い、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を推進するため、「学びをつなぐ 希望のバトン カリキュラム『ふくい 18 年教育』」を策定し、0 歳から 18 歳までの育ちや学びの連続性・一貫性について社会全体での共有を図り、幼小中高大のトータル教育を推進〔義務教育課〕
- ・教職員のやりがいや挑戦する意欲を引き出すため、学校現場での創意工夫を顕彰する「ふくい教育チャレンジアワード」を開催し、教職の魅力を積極的に発信〔教職員課〕
- ・教育現場の意見や県内の現状分析などを取りまとめた「ふくいの教育 ミライレポート」を作成し、教職員の働き方や教育行政施策などの方向性を全ての学校に発信〔教職員課〕
- ・令和 6 年度の全教職員に占める月 80 時間以上の超過勤務者の割合は、昨年度 0.4%から 0.2%に減少、同じく月 45 時間以内の超過勤務者は昨年度 70.0%から 74.3%に向上(R2～)〔教職員課〕
- ・優秀な教員志願者を確保するため教員採用選考試験を見直し、大学院修士課程修了時特別選考の受験資格の拡充、「大学 3 年時第 1 次選考」の受験資格を拡充し「チャレンジ第 1 次選考」に改称（志願者 192 名）、従来の加点制度の対象資格に情報関連資格を追加（R6～）〔教職員課〕
- ・県立学校の大規模改修工事について、工事 4 校（金津、勝山（体育館）、武生商工、敦賀工業）と設計 4 校（福井農林、ろう学校、若狭、勝山）が完了〔教育政策課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	R 5	直近	目標
時間外勤務 月 80 時間以上の 教員の割合	12% [2018]	4.4% [2020]	1.2% [2021]	0.6% [2022]	0.4% [2023]	0.2% [2024]	0% [2021]
教員採用試験 志願倍率	3.7 倍 [2020]	4.1 倍 [2021]	3.5 倍 [2022]	2.8 倍 [2023]	2.8 倍 [2024]	2.2 倍 [2025]	4.0 倍
保護者や地域の人 が学校の諸活動に 参加していると回 答した学校の割合 (全国学力・学習 状況調査)	小学校 100 %	－	97.30%	96.10%	97.30%	－	100%
	中学校 88.5%	－	81.70%	84.20%	82.50%	－	
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	[2024]	
公立学校施設の 長寿命化計画の 策定率	22% [2018]	89% [2020]	100% [2021]	100% [2022]	100% [2023]	100% [2023]	100%
県立学校（普通教 棟）のトイレの 洋式化率	53% [2018]	83% [2020]	93% [2021]	93% [2022]	93% [2023]	93% [2023]	90%
防災専門家のアド バイスを受け、 危機管理マニユア ルを見直した学校 の割合	41% [2018]	55% [2020]	65% [2021]	78% [2022]	86% [2023]	86% [2023]	100%

2 主要事業の実施成果

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （１）次世代につなぐ美しい県立学校リノベーション事業 教育政策課				
〔事業目的〕	県立学校の長寿命化を進め、時代に即した学習環境を備える学校を整備するため、計画的にリノベーション工事等を実施する。			
〔事業内容〕	建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修			
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2, 209, 634		1, 987, 000	222, 634
〔事業の目標および効果〕	・ 高等学校 4 件の大規模改修工事を実施した。 ・ 高等学校 3 件、特別支援学校 1 件の設計を実施した。 ・ 6 校 17 教室の空調設備更新工事を実施した。			
〔事業評価〕	学校施設の大規模改修工事を実施し、屋上防水や外壁改修など長寿命化を進めた。また、断熱性の確保により省エネ化を図る改修など、時代に即した学習環境を整備するとともに、空調設備更新工事を実施した。			

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （２）新たな部活動指導体制推進事業 教職員課					
〔事業目的〕	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。				
〔事業内容〕	・ 教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員等を中学校、高等学校に配置 ・ 部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善				
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	92, 094	14, 018		78, 076	
〔事業の目標および効果〕		内 容	目標	実績	
	活動指標	部活動指導員の配置校数	96 校	79 校	
	成果指標	時間外在校等時間月 80 時間以上の職員数	0 人	延べ 195 人	
〔事業評価〕	・ 退職教員等の部活動指導員を中学校 53 校、高等学校 26 校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。 ・ 一方、部活動指導員の外部人材の確保が難しく、未配置の学校もあることから、今後も外部人材の確保に努め、教員の時間外在校等時間を削減していく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(3) 引き出す教育・楽しむ教育実践事業				教職員課	
[事業目的]	I C T等の先端技術を活用した学びを楽しむ授業づくりや子どもの興味・関心を引き学習意欲の向上に繋げるクラブ活動の実践に向けた研究に取り組む教員グループの活動を支援するとともに、自主的な研究活動を支援し、教員の指導力向上を図る。				
[事業内容]	① 先端技術活用研究への支援 ④ 授業実践研究への支援 ② 小学校クラブ活動への支援 ⑤ 教職大学院派遣教員への支援 ③ 若手教員学習会への支援				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	2,895		2,895	
	②	375		375	
	③	1,529		1,529	
	④	6,542		6,542	
	⑤	2,115		2,115	
	計	13,456		13,456	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	交付決定件数	100 件	89 件	
	成果 指標	学習支援システム への掲載数	25 本	31 本	
[事業評価]	・先端技術活用研究 15 グループ、小学校クラブ活動 9 グループなど、89 グループの自主的な研究グループの活動を支援したが、小学校クラブ活動や若手教員学習会の申請が少なかったことから目標件数には到達しなかった。 ・今後は新事業に改め、次世代教育の開発研究とあわせて、教員のウェルビーイングにつながる研究にも支援し、さらなる指導力向上を図る。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(４) 新 高校生の探究的な学び支援事業					高校教育課
[事業目的]	生徒が取り組んでいる探究活動の成果発表や活動資金獲得に向けた支援等を行うことで、学びの充実を図る。				
[事業内容]	・ 課題研究等の合同発表会（高校生探究フォーラム）を開催 ・ クラウドファンディング申請への支援 ・ 探究系全国大会出場への支援				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	2,139		981	1,158	
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	生徒の活動資金獲得に向けたクラウドファンディング申請件数		6 件	1 件
	成果 指標	探究系全国大会に出場する生徒チーム数		5 チーム	4 チーム
[事業評価]	高校生探究フォーラムに参加した生徒数386名。参加生徒にアンケートを実施し、ポスターセッションに対して非常に満足・満足と答えた生徒99%、後輩にフォーラム参加をぜひ勧めたい・勧めたいと答えた生徒96%であった。 生徒の探究活動の機会の充実を図ることができた。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(5) 生徒の進学希望実現支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒の特性・興味・関心にあった進路選択を行えるよう各学年段階において支援を行うほか、生徒の進学希望を実現するために、高校における進学指導体制や生徒への受験対策を強化する。				
[事業内容]	・大学進学者の多い県立高校を対象に、大学進学希望者に対する受験対策を支援 ・新入生と保護者のための大学進学セミナーの実施 ・「福井県大学進学サポートセンター（現役生対象）」の設置				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	4,423				4,423
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	大学進学サポートセンター 登録者数		150 人	299 人
	成果 指標	国公立大学合格者率		24.5%	27.8%
[事業評価]	県立高校の卒業者数に対する国公立大学の合格者数の割合（27.8％）は、確認できる平成 20 年度以降過去 2 番目に高い合格率であり、多くの生徒の進路志望実現支援が図られている。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
（６）英語力向上事業				高校教育課	
[事業目的]	国際社会で求められる英語力について、生徒が自身の英語力を把握するための一助となる支援等を行うほか、高度な英語運用の力を身に付けるための取り組みにより、英語学習に対する意欲向上を図る。				
[事業内容]	・職業系高校にてふるさとツーリズム英会話検定を実施 ・民間事業者による外部検定試験の受験料を支援 ・福井県英語ディベート大会を開催				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	21,738		1,200	3,978	16,560
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	中高英語教員対象研修 会実施回数		8 回	8 回
	成果 指標	高校卒業時に求められ る英語力達成率		55%	61.2%
[事業評価]	外部検定試験の受験料補助や、職業系高校におけるふるさとツーリズム英会話検定などを通して、生徒の実践的な英語力の向上と英語学習に対する意欲の促進を図ることができた。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(7) 高校生次世代理系人材育成プロジェクト				高校教育課	
[事業目的]	高校生および教職員を対象としてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の成果普及と支援を行い、理系人材の育成を図る。				
[事業内容]	① SSH校等に対し、サマープログラムやゼミ講習、生徒研究支援を実施 ② 教科「情報」の教員免許認定講習による高校指導者の養成				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	6,738	747	2,857	3,134	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	研究公募への応募数	10 件	6 件	
	成果 指標	全国規模の科学研究コンテストの受賞数	3 件	2 件	
[事業評価]	研究公募への応募数は、一部の学校に偏りがあり、学校全体への周知が不十分であった。すべての学校への周知を徹底するとともに、過去の事例なども紹介しながら対象生徒および担当教員に対し研究公募への参加を促す。				

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
(8) 未来の産業教育ブーストアップ事業					高校教育課	
[事業目的]	産業界と専門高校が一体・同期化し、絶えず革新し続ける最先端の職業人育成システムを構築し、専門高校の職業人材育成の抜本改革を図る。					
[事業内容]	・産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新し実践 ・企業等での授業・実習や企業等の施設・設備の共同利用を実施					
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源		一般財源
	5,870		5,870			
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績	
	活動 指標	企業技術者等による 授業数		38 回	98 回	
	成果 指標	商品化・実用化された 取組み数		7 件	7 件	
[事業評価]	企業や大学と連携した共同研究や商品開発の取り組みを実施することで、地域産業を牽引できる人材の育成が図られ、学校の魅力を地域に発信している。					

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （9）福井フューチャーマイスター事業 高校教育課					
〔事業目的〕	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。				
〔事業内容〕	・生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき、認定を行う福井フューチャーマイスター制度を実施 ・専門資格の取得を支援（補助率 2/3 【一般資格は 1/2】）				
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源
	7,881		110		一般財源 7,771
〔事業の目標および効果〕		内 容	目標	実績	
	活動指標	高度技術者による講座数	52 回	52 回	
	成果指標	福井フューチャーマイスター認定率	87.4%	83.9%	認定を目指す生徒の増加に対し、認定数が少なかったため
〔事業評価〕	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。				

I 個性を伸ばす（人材力） 1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進 （10）特別支援学校キャリア教育推進事業 高校教育課					
〔事業目的〕	農業体験など地域との連携・協働により、特別支援学校児童生徒の就労・学習意欲や職業スキルを向上させるなどキャリア教育を推進する。				
〔事業内容〕	・農業法人等による技術指導や校外での農業体験実習を実施 ・生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施 ・地域での販売会やボランティア活動など、社会貢献および交流活動を実施				
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫		その他特定財源
	1,862				一般財源 1,862
〔事業の目標および効果〕		内 容	目標	実績	
	活動指標	農業体験活動参加生徒	150 人	212 人	
	成果指標	農業体験実習受入企業等数	12 社	9 社	
〔事業評価〕	農業体験実習や技能検定の実施により、特別支援学校生徒の技能向上や就労の促進が図られている。				

I 個性を伸ばす（人材力）				
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進				
(11) ⑨インクルーシブ教育推進事業				高校教育課
〔事業目的〕	障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が交流及び共同学習を発展的に進め、一緒に教育を受けるインクルーシブな学校運営モデルを構築する。			
〔事業内容〕	・特別支援学校と近隣地域の小・中学校との居住地校交流を実施 ・近隣地域の専門家と連携した学習活動を実施			
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源
	1,286			1,286
〔事業の目標 および効果〕		内 容	目標	実績
	活動 指標	交流及び共同 学習を実施 指定小・中学校	2校	2校
	成果 指標	交流および 共同学習の 活動に対する 満足度	70%	99%
〔事業評価〕	・モデル校での交流や共同学習の実施をととして、多様性を認め合える環境づくりや体制構築について関係各校間の連携や相互理解が進んだ。			

I 個性を伸ばす（人材力）				
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進				
(12) ふるさと教育推進事業				義務教育課
〔事業目的〕	児童生徒が自らの地域について学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさと福井に誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。			
〔事業内容〕	・ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会の開催 ・「ふるさと福井CMコンテスト」の開催 ふるさとCMを作成するための経費を助成 (1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2) ・福井ふるさと教育フェスタの開催 小中学生による活動成果のステージ発表			
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源
	6,497			290
〔事業の目標 および効果〕		内 容	目標	実績
	活動 指標	参加団体数	102団体	117団体
	成果 指標	地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える児童生徒の割合	75%	82.4%
〔事業評価〕	・プレゼンテーション大会（15団体）、CMの作成（小学校47校、中学校21校）、教育フェスタ（34団体）を実施し、ふるさと福井の魅力を発信できる人材の育成を図った。 ・ふるさとの学びフェアの開催などイベントや活動を実施し、ふるさと福井に誇りや愛着を育てていく。			

I 個性を伸ばす（人材力）						
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進						
（13）芸術教育推進事業					義務教育課	
〔事業目的〕	学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童生徒の感性や表現力の向上を図る。					
〔事業内容〕	・ 中学校、高校の合唱部・吹奏楽部等に対しアーティストの派遣や、全国大会の出場にかかる経費を支援 ・ 小中学校、高校の弦楽奏者に対し、アーティストを派遣 ・ 福井県ゆかりの作家を講師として招き、中学校、高校の美術部員を対象に研修会を開催					
〔決算額〕 (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源	
	3,627				3,627	
〔事業の目標 および効果〕		内 容		目標	実績	
	活動 指標	アーティストの派遣回数		102 回	135 回	文化課「文化の担い 手育成事業」での芸 術家派遣回数を含む
	成果 指標	全国大会入賞校数		6 校	5 校	
〔事業評価〕	・ プロのアーティストの指導により、生徒のスキルアップが図られている。 ・ 全国大会（東日本学校吹奏楽大会・中部日本吹奏楽コンクール本大会）に出場し、3校は、金賞を受賞した。					

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(14) スクールカウンセラー配置事業					義務教育課
[事業目的]	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。				
[事業内容]	教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー92名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内連携・支援チームの構築・支援				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	136,042		45,347		90,695
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	相談件数	－	41,366 件	
	成果 指標	1,000 人あたりの不 登校児童生徒数	－	26.6 人	
[事業評価]	・スクールカウンセラーの配置時間の増や研修会の実施により教育相談体制の強化を図った。 ・今後も児童生徒や保護者を支援するために体制の強化を続けていく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(15) スクールソーシャルワーカー配置事業					義務教育課
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、虐待等の課題を抱える児童生徒の支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。				
[事業内容]	・教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー26名を配置 ・問題を抱える児童生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境を改善				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	31,811		10,603		21,208
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	相談件数	－	570 件	
	成果 指標	1,000 人あたりの不 登校児童生徒数	－	26.6 人	
[事業評価]	・児童相談所や警察などの関係機関と連携し、児童生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。 ・今後もスクールソーシャルワーカーの配置時間の増や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(16) 地域文化部活動体制整備事業				義務教育課	
[事業目的]	5 年度以降の休日の文化部活動について、国が示す改革推進期間（5～7 年度）において、着実に地域へ以降し、地域において持続可能な生徒の文化活動の機会を確保する。				
[事業内容]	・ 中学校区レベルで、指導者の派遣管理、学校や文化施設との連絡調整・安全管理等を行うコーディネーターを配置 ・ 地域文化クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実のため、持続可能な運営に向けた体制整備や質の確保に係る取組等を支援 ・ 休日の地域クラブ活動において、子どもたちに実技指導する者を配置 ・ 県内有識者等による検討会を開催し地域クラブ活動の在り方を検討				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	8,676		8,193		483
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	地域移行に取り組む 市町数	9 地域	7 地域	
	成果 指標	休日の活動を地域に 移行した部活動数	32 部	16 部	
[事業評価]	指導者の確保が難しく目標には達しなかった。今後、福井県吹奏楽連盟や合唱連盟、文化協議会とも連携し、子どもの受け皿となる地域バンドや指導者の確保に努めながら、地域展開を推進していく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(17) 英語力向上事業					義務教育課
[事業目的]	グローバル社会で求められる英語力について、その学習状況を把握する一助として外部検定試験を活用し、本県生徒の英語力、英語学習に対する意欲向上を図る。				
[事業内容]	・ 中学3年生に対し、GTEC等の外部検定試験受験料を年1回全額補助				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源		一般財源
	34,380				34,380
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動指標	中学3年生の外部検定試験受験者の割合		90%	92.0%
	成果指標	中学卒業時にCEFR A1以上の英語力を持つ生徒の割合		65%	79.8%
[事業評価]	・ 県内全ての公立中学校3年生を対象に、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の英語力を測定できる外部検定試験GTECの受験料支援を実施した。 ・ 結果分析資料等を基に、教員対象研修を集合型と動画配信型で行い、生徒の学習改善と教師の指導改善を図った。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(18) 子どもの読書活動推進事業				生涯学習・文化財課	
[事業目的]	子どもたちが本と出会い、読書を楽しむ環境づくりのために、家庭、地域、学校において子どもの読書活動を推進する。				
[事業内容]	・ 家庭・地域・学校等における読書活動の推進 推奨図書小冊子の作成、ジュニア司書養成講座、 子ども読書研修会、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座 等				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	2,984			2,984	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	講座等の開催回数	20 回	21 回	
	成果 指標	県立図書館における推奨図書の貸出冊数	13,000 冊	11,130 冊	
[事業評価]	・ジュニア司書養成講座や子ども読書研修会、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座等を開催し、家庭・地域・学校等での読書活動を推進した。 ・講座等の開催については、Web掲載による県内の学校図書館担当の教職員への周知やオンライン講座の開催により、参加者の利便性の向上を図った。 ・推奨図書の貸出冊数については、3月の春休み期間に図書館のシステム更新のため休館していた影響により貸出数が伸びず、達成できなかった。今後は推奨図書の利用促進に向けて、学校に加えて幼稚園・保育園・こども園等への貸出も進めていく。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
(19) 文化財指定促進事業				生涯学習・文化財課	
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、学校教育や観光への活用を図るため、国指定等に向けた調査を推進する。				
[事業内容]	建造物、民俗、古文書等の調査				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	7,787				7,787
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	現地調査件数	27 件	36 件	
	成果 指標	文化財指定件数	10 件	4 件	
[事業評価]	・伊井白山神社本殿 附 棟札類2枚（あわら市）、組屋家文書（小浜市）、鼓山古墳群出土品（福井市）、紙製地球儀 附 紙本墨書『地球讃並序』1巻（小浜市）の4件が新たに県指定文化財に指定された。 ・文化財指定件数については、現地調査に想定以上の時間を要したため、指定まで至らなかった文化財があり、達成できなかった。				

IV 住みやすさを高める（地域力）					
13 人生100年時代の充実生活応援					
(1) 子どもの目と歯の健康プロジェクト事業					保健体育課
[事業目的]	生活習慣を見直すことを通して、視力低下の進行を遅くするとともに、トレーニングによって視覚機能の改善を推進する。 正しい歯みがきの仕方を身につけることなどにより、むし歯予防を促進するとともに、二次検診の実施によりむし歯治療率を向上させる。				
[事業内容]	・視力低下の抑制や視覚機能を改善する取り組みを実施（ゼロ予算） 小学1、2年生に「生活習慣チェックカード」をデータ配信 各教室に「目の健康を守る3か条」を掲示し、「目のリフレッシュタイム」、「ビジョントレーニング」を実施 ・むし歯予防の促進やむし歯治療率を向上させる取り組みを実施 15市町で二次検診を実施 モデル校10校（6市町）でフッ化物洗口を実施 小学1、2年生にリーフレットを配布（ゼロ予算）				
[決算額]	決算額		国庫		その他特定財源
(単位：千円)	3,249				3,249
[事業の目標 および効果]		内 容		目標	実績
	活動 指標	目の健康に関する指導実施率(%)		100.0	100.0
		歯磨き指導実施率(%)		100.0	100.0
	成果 指標	視力1.0未満の小学生の割合(%)		36.8	34.2
		むし歯のない（処置者を含む）小学生の割合(%)		83.5	79.3
[事業評価]	・活動指標である指導実施率は、目・歯ともに目標を達成した。 ・むし歯のない小学生の割合は未達成であるが、県内のむし歯のない(処置者を含む)小学生の割合は概ね改善傾向にある。				

I 個性を伸ばす（人材力）					
1 子どもが主役の「夢と希望」、「ふくい愛」を育む教育の推進					
（21）  地域運動部活動体制整備事業					保健体育課
[事業目的]	令和 5 年度以降の休日の運動部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ環境の一体的な整備に向け、スポーツ団体等の整備充実、指導者確保、参加費用負担への支援等を総合的に推進し、地域において持続可能な中学生のスポーツ活動の機会を確保することを目的とする。				
[事業内容]	・ 休日の部活動の地域移行に向けた市町の取組みを支援 コーディネーター等の配置 スポーツ活動の運営に必要な経費（事務局員人件費、指導者謝金等）への支援 経済的に困窮する世帯への参加費用負担の支援				
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源		一般財源
（単位：千円）	47,191	28,796			18,395
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	地域移行に取り組む市町数 （市町）	17	17	
	成果 指標	休日の活動を地域に移行した 部活動数（部活動）	330	333	
[事業評価]	・ 6 年度末までに、約 1／2 の運動部活動（333 部活動／660 部活動）が休日活動を地域に移行した。 ・ 引き続き事業を実施し、7 年度末には約 9 割の運動部活動が地域移行を完了する予定。				

その他					
(1) こども歴史文化館展示事業				生涯学習・文化財課	
[事業目的]	福井ゆかりの人物（先人・達人）の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。				
[事業内容]	・ 普及事業…各種イベント、出前教室等の実施 ・ 発掘事業（調査研究）…未開拓の人物情報の調査研究 ・ 資料収集事業…実物資料の収集等 ・ 特集事業…企画展の開催				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	10,795			59	10,736
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	2 回	2 回	
	成果 指標	利用者数	60,000 人	45,376 人	開館 15 周年記念イベントの開催や他館と連携しての共催展を開催したこと等から、令和5年度の利用者数を上回った。(5年度：42,246人)
[事業評価]	・ 特別展『江戸時代の人気キャラクター・ヒーローズ』を開催し、福井県に数多く残されている江戸時代に描かれた絵馬の中から、人気物語のキャラクターが登場するものを中心に展示した。あわせて、福井に伝わる、日本で3点しか見つかっていない江戸時代前期の物語絵巻「十二類絵巻(別本)」(干支の動物の物語)も初公開した。 ・ 常設展「先人のひろば」の「杉田玄白」コーナーに、玄白の『解体新書』がもたらした身体観の変化を楽しく学べる参加型展示を新設した。				

その他					
(2) ふるさと文学館事業			生涯学習・文化財課		
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。				
[事業内容]	・ 企画展の開催 ・ 若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学講座等の開催				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	23,178			14	23,164
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	企画展開催回数	3 回	3 回	
	成果 指標	入館者数	62,000 人	71,077 人	
[事業評価]	・ 夏季企画展「刀根里衣展」では、敦賀出身の現役絵本作家の原画約 100 点を展示。家族連れを中心に多くの来館者で賑わった。 ・ 冬季企画展「石川九楊展源氏物語書巻五十五帖展」では源氏物語を題材にした書作品や NHK 大河ドラマ「べらぼう」題字などタイムリーな展示を実施した。 ・ 刀根里衣氏、石川九楊氏、角田光代氏など著名な作家による講演会のほか、直木賞を受賞した伊与原新氏を高校へ招いてのオーサートーク、県内作家による詩・短歌・俳句の出前文芸創作教室などを実施し、中高生を中心に若い世代が作家や文学と直に触れる機会となった。				

3 「教育に関する大綱」および「教育振興基本計画」の策定について

本県の教育等の振興に関する基本的な方針である「教育に関する大綱」および、その実行計画である、「福井県教育振興基本計画」を令和6年度に改定

子どもたちが「夢と希望」を持ち、一人一人の個性を発揮しながら、人生を切り拓いていけるよう、「子どもが主役の教育」を推進

〔新たな計画の特色〕

- ・子どもが自らの興味関心や特性等に応じて主体的に学ぶ個別最適な学びの推進に向けた、デジタル教材など授業用・自学用ソフトの活用徹底による学びの変革
- ・将来や生き方を考えるきっかけをつくる「ライフデザイン教育」の推進に向けた、ふくい未来と地域政策を学ぶ「地域デザイン講座」の開催、県内で活躍する地元OB等と交流する機会の充実
- ・全ての子どもが安心して学べる場の充実に向けた、「校内サポートルーム」の設置拡充、多様な障がいに対応するインクルーシブな学校づくり
- ・教職員の働き方改革の更なる推進に向けた、「産育休等代替教職員」の事前配置等による男性教員の育休取得促進、チーム担任制など個々の教員に負担や責任が集中しないチームマネジメントの推進 など

VI 有識者からの意見

○ 福井大学大学院連合教職開発研究科長 木村 優

「世界につながる学びと育ちのエコシステムを編む」

「世界についての知識」

これは、2025 年 6 月末に OECD（経済協力開発機構）Education 2030 プロジェクトから新たにリリースされた「ティーチング・コンパス」の「教師の知識」セクションで示されたキーワードの一つである。

教師たちには教科の学問知識、カリキュラムの知識、教育方法の知識、教育評価の知識といった教育実践の基盤となるこれらの知識が不可欠であることには変わらない。しかし、暮らしや仕事や科学技術の変化が目まぐるしく展開する現代のアクセルレイテッド・ソサエティ（Accelerated Society：加速する社会）、そして世界中の人々・物事・文化が密接に結びつき絡み合っていくハイパーコネクティブ・ワールド（Hyperconnective World：超つながり世界）では、「教師たちは気候変動、移民、デジタル化、進化する労働市場のニーズといった現実世界の問題と学習を結びつけ、教育を形成しているより広範な社会的、文化的、グローバルな文脈を理解する世界についての知識」（OECD, 2025）がますます重要度を増してくることになる。

教育の効果をより一層、高めるためには、教師たちがこうした世界についての知識をもち、絶えず更新し、世界をより良く変える最重要エージェントであり続けていくことが大切になる、という提起である。

もちろん、この「世界についての知識」の重要度が増しているのは教師たちだけではない。私たちが教室で、学校で、地域で進めている実践、そして教育委員会で推進している施策は、世界中で起こっている出来事といったいどのように結びついているのだろうか。私たちの挑戦とそこで起こす/起こそうと企図している変化は教室と学校、地域と国家を超えて世界のいかなる前進に寄与するのだろうか。こうした結びつきと相互影響＝エコシステムを念頭に置いた「問い」を私たちは常にもって実践と施策を展開・推進していく必要がある。さらに、「世界についての知識」は当然のことながら子どもたちにも必須で、保護者や地域の人々にも必要になる。すなわち、すべての教育ステークホルダーで「世界についての知識」を学び合い、共有する必要がある。

それでは、「世界についての知識」から県の施策を概観してみよう。そのために、現在の世界の状況を一部だけ確認しておこう。なお、世界は今、大きな転換点に差しかかっている。それは、私たちが 20 世紀半ばから共有してきた秩序とコンセンサスを急速に失いつつあるためである。

第二次世界大戦後、地域内の主導権争いや地域間の小競り合いは世界中で頻発してきたのだが、私たちはこの 70 年余りの間、なんとか首尾よく世界中の国と地域を巻き込む大戦争を抑え込んできた。しかし、この 3 年間で東西ヨーロッパの緩衝地帯と中東でくすぶっていた争いの火種が再燃し、世界中の国と地域がその争いの渦に巻き込まれようとしている。私たちは未だにこの渦から抜け出す出口を見通せないでいる。

科学技術の加速度的進展とグローバル化の拡大は私たちに大きな暮らしの変

化と文化的交流の拡大をもたらした。私たちの暮らしは以前より便利になり、新たな文化交流は新たな価値創造の契機を生み出し続けている。その一方で、グローバリゼーションの波は私たち人類には好ましくないものも世界中に届けもする。2018 年末にユーラシア大陸東部で発生した新型コロナウイルスは、拡大したグローバリゼーションの波に一気に乗って世界中に広がり、およそ 100 年ぶりのパンデミックを引き起こした。

また、コンピュータの発明と WWW (World Wide Web) によるネットワーク社会を創出した第 3 次科学革命のエネルギー需要は増加の一途を辿っている。世界中で発せられるエネルギー熱量の増大は地球を燃やし、偏西風を蛇行させ、世界中に災害を引き起こす遠因となっている。第 3 次科学革命はまた「ギグ・エコノミー」という新たな経済を生み出した。ギグ・エコノミーとは、労働者がインターネットを通じて単発や短期の仕事を請け負う働き方によって回る経済のことで、労働者にとっては多様な働き方が保障され、企業側にとっても正規雇用にまつわるコスト削減につながる。「ギグ」はアーティストやミュージシャンが単発や即興で行うライブ活動からきた用語である。一見、労働者＝ギグワーカー側と企業側の双方にメリットのある経済の仕組みだが、ギグワーカーが単発や短期の仕事を日常の生業にするケースが多発し、雇用条件の脆弱性から新たな貧困・格差が生み出される負の側面が露見している。

そして、世界中の国と地域はますます内向的になっていきている。自国・自地域第一主義は、他地域や他国家の抱える問題から人々の関心を逸らし、地球規模の問題を先送りにする。みな自分が、自地域、自国家が生きるために精一杯で、他者や他地域や他国、そして宇宙船地球号の現状と未来を省みることが難しくなっている（ブレマー、2012）。

こうして「世界についての知識」の一部を概観すると、私たちは教育を通じて人々のつながりを回復し、新たな価値と新たなリーダーシップを創造する必要がある。世界をより良く変えていく必要がある。そのために、私たちはいかにして教育をデザインしていけば良いのだろうか。

子どもたちを地域・世界につなげる県の施策

「世界についての知識」をふまえて令和 6 年度福井県教育委員会の教育関係施策の取組実績を見てみよう。

まず、福井県では方針 1「学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成」にもとづき、学校教育におけるデジタル環境と地域探究カリキュラムの充実を図ることで子どもたちを世界・地域につなぐ試みが推進されている。また、方針 2「適正や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進」でも、子どもたちを地域スポーツ・芸術につなぐ取組を継続し、そこでは大学や地域クラブとの連携も進められている。そして、方針 3「豊かな心、健やかな体の育成」にもとづいて「アウトドア教育」と「読書活動応援事業」が推進されている。これら方針 3 の取組は、方針 1 で推進されるデジタル環境の整備と並行して進められることに大きな価値がある。AI (Artificial Intelligence) と HI (Human Intelligence) が融合していくこれからの教育では、どちらか一方の I (Intelligence) に偏向するのではなく、マシンベイスド (Machine-Based)・スクリーンベイスド (Screen-Based)・グリーンベイスド (Green-based) の融合と使い分けが必要になる (Hargreaves & Fink, 2022)。グリーンベイスドの自然と書物の教育を重視する

方針3の事業は今後、重要度を増すだろう。

方針4「国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成」の各事業はまさに子どもたちを世界につなぐものである。子どもたちが多文化の人々と積極的にコミュニケーションを行い、自らの意見を表明できるチャンスを保障することは、世界についての知識を子どもたちが学び、生み出す契機となる。方針5「特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備」の各事業は、子どもたち一人ひとりが世界にかかわるための足場をつくるためエッセンシャル事業といえる。足元に堅固なつながりが保障されているからこそ、子どもたちははじめて世界につながる挑戦に向かうことができる。方針6「ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成」と方針7「生涯にわたる学びの支援」にもとづく事業の数々は、方針1・2・3の各事業と連動して、直接的に子どもたちと地域をつなぐ教育実践の推進に寄与している。

そして、方針8「新たな時代を見据えた教育環境の整備」の各事業は、子どもたちを地域・世界につなぐ「学びと育ちのエコシステム」の編み手となっていく新しい教師たちの職務環境を改善し、そうした新たな教職へと若者たちを誘うための挑戦である。

このように、令和6年度福井県教育委員会の教育関係施策の取組実績を概観すると、すべての方針とそれにもとづく推進事業で、子どもたちを地域・世界につなげる哲学が通底していることがうかがえる。

世界を変える力をもった子どもたちと教師たちを育てる

以上、「世界についての知識」の枠組みから令和6年度福井県教育委員会の教育関係施策の取組実績を概観してきた。私たちは「学びと育ちのエコシステム」の観点で、一つひとつの取組が何に/何とつながり、その場の状況や未来の状況にどのような正負の影響を及ぼすのかを想像しながら教育事業を推進していく必要がある。また、教育事業の推進にあたっては「連帯」という考え方が必須となる。複雑さと混迷さをます世界では、一機関や一地域だけで問題を解決したりイノベーションを起こしたりするには不可能になってきている。世界を変える力をもった子どもたちと教師たちを育てるには、つながりと連帯というエコシステムの発想が不可欠である。保護者や地域をはじめとした多様な教育のステークホルダーとさらなるパートナーシップを組み、子どもたちが主役となる教育のさらなる進化、そしてその成果を世界につなぐ福井県の教育を期待する。

参考文献

Hargreaves, A. & Fink, D. (2022) “Sustainable leadership in an unsustainable world,” *Principal Connections*, Winter 2022, 26(2), pp.16-19.

https://www.andyhargreaves.com/uploads/5/2/9/2/5292616/pc-winter-2022-vol26-issue2-_andyhargreaves-deanfink.pdf (Accessed: 14th August 2025).

イアン・ブレマー (2012) 『「Gゼロ」後の世界：主導国なき時代の勝者はだれか』日本経済新聞出版社。

OECD (2025) “OECD Teaching Compass: Reimagining teachers as agents of Curriculum change,”

https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/publications/reports/2025/05/oecd-teaching-compass_5688638f/8297a24a-en.pdf (Accessed: 14th August 2025).

○ 福井県高等学校PTA連合会 会長 生島 直樹

この度、令和6年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書（以下「報告書と言う。」）がまとめられましたことに対し、深く敬意を表します。

以下、大変僭越ながら私見を述べさせていただきます。

方針1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成

地域課題解決型学習やロールモデルとの交流、ICT教育の強化更には地元企業との連携強化に力を入れることで、若者が福井の地で「自分らしい」生き方や働き方を見つけ、地域に根差し、地域を活性化させる人材として育つことを目指していることを高く評価します。

これらの教育を通して、単に「県外への流出を防ぐ」だけでなく、「地方で生きることを選ぶ」若者を増やすための教育に力点を置くことが今後必要になると考えます。

方針2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進

第44回近畿高等学校総合文化祭福井大会では、「福いっぱい文化の技 笑顔の花を咲かせよう！」のスローガンに、企画運営、ポスター、チラシ作成などを生徒主体となって実行し、近畿2府8県という多くの生徒による文化的交流ができたものと思います。

また、近年話題となっている部活動の地域移行では、教員の負担軽減と働き方改革の推進や専門性の高い指導の実現、地域との連携強化と活性化が期待できる一方で、指導者の確保と質の担保、費用負担の発生と公平性の確保、そして安全管理と事故発生時の責任の所在などが懸念事項となります。

持続可能な教育体制を構築し、生徒と教員双方にとってより良い環境を実現するための重要な取り組みであることは理解できますが、引き続き関係者が連携しながら、実効性のある方策を講じていくことが必要であると考えます。

方針3 豊かな心、健やかな体の育成

継続するキャンプブームなどにも注目し、豊かな心、そして健やかな体の育成として自然体験や社会体験活動など多様な体験活動を推進していること。また、読書離れが加速する現代において、推奨図書への支援、スーパーバイザーによる研修、助言など、子どもたちが本と出会い、読書を楽しむ環境づくりを行っている点を高く評価します。本を通じて様々な登場人物の心情や多様な価値観に触れることで、共感力や想像力を育むことに繋がります。

豊かな心は、様々な資質や能力が複雑に絡み合い、相互に作用し合うことで育まれていきます。

そのため、家庭、学校、地域社会が連携し、子どもたちが多様な経験を積めるような環境を整えることが重要であると考えます。

方針4 国際的な視野に立ち、自ら考えを発信する力の育成

国際的な教育を受け、自ら行動することで、子どもたちは広い視野、異文化理解、問題解決能力、語学力などを身につけるとともに、これらの能力は、例えば生徒が一度首都

圏や海外に出たとしても、将来的に故郷に戻り、地域社会に貢献する際に非常に強力な武器となると思います。

たとえば、海外で培ったビジネススキルやネットワークを活かして、地域の特産品を海外に展開したり、国際的な観光客を呼び込むプロジェクトを立ち上げたりすることも可能です。

また、国際的な視点から福井の課題を捉え直し、新しい解決策を提案することも期待できます。

そのためには我々保護者も、海外で多くの経験をした若者が福井へ戻ったとき、魅力的な仕事に就けるための雇用機会や、プロジェクトを創出することができる環境を整えておくことも重要であると考えます。

国際的な生徒の育成は、単なる「人材流出」ではなく、「人材の循環」と捉えることができ、子どもたちが地域とのつながりを持ち続け、将来的に貢献できるような環境を整えることが大切であると考えます。

方針5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備

誰もが安心して学べる教育環境を整備するためには、教職員、児童生徒、保護者、地域住民が多様性を尊重し支え合う心を持つ、即ちインクルーシブ意識の向上が必要であると思います。

個々の多様性を理解し尊重する環境づくりのほか、失敗を恐れずに挑戦し、自分の意見を安心して表現できる雰囲気づくり、相談しやすい環境を整え、専門家（スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなど）と連携できる体制を強化していることを高く評価します。

今後は教員が過度な業務に追われることなく、子どもたち一人ひとりに向き合えるよう、業務の効率化やサポート体制の強化をすることで、教員の精神・肉体的健康が保たれ、それが教育の質の向上に繋がるものと考えます。

また、令和8年4月には、福井県立夜間中学校も開校予定であることから、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人だけでなく、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人、外国籍の人などに対して義務教育を受ける機会を設けるなど、様々な人に対する就学機会の提供に向けた教育環境の整備については大きく期待したいと思います。

方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

ふるさと福井を愛する子どもの育成のため、教育フェスタ、CMコンテストの開催や、福井の先人や展示について検索できるシステムを構築するなど、故郷をこよなく愛し、そして発展のために尽力できる人物の育成に力を入れていることを高く評価します。

ここに掲載された達成目標を見ますと、県内企業に就職した高卒者の割合が9割を維持していることは、故郷を愛し、そしてずっと地元で暮らしたいと思う若者がいる一方で、将来の夢や希望を持つ児童生徒の割合が目標に届いていないことを考えると、今後子どもたちの将来の夢に対して様々な角度からアプローチしていく必要があると考えます。

方針7 生涯にわたる学びの支援

環境学習では自然への理解を深め、感受性を豊かにし、世代間交流事業においては、優しさ、思いやり、忍耐力、協調性などの人間性を育み、また、異なる年齢の人々と接することでコミュニケーション能力や社会でのルールを学ぶことについて、担当課を中心に積極的に支援していることを高く評価します。

今後は地域社会の様々な課題解決に向けて、地域に暮らす人々の学びを支援し、多様な人々や組織をつなぐ役割を担う社会教育士の確保の推進にも力を入れていただきたいと思います。

方針8 新たな時代を見据えた教育環境の整備

教職員の確保や教育現場の改善、充実に向けて、様々な取り組みを行っていることを高く評価します。

しかし、一部の教員の不祥事により、多くの教員が日々子どもたちのために尽力している努力や献身が軽視され、教職員全体が批判の対象となるのは非常に残念でなりません。もちろん、不祥事は決して許されるものではなく、厳正に対処されるべきです。その一方で、大多数の真摯な教員の働きを正に評価し、応援することも健全な教育環境を維持・発展させていく上では非常に重要であると考えます。

教員の皆さんが誇りを持って仕事に取り組めるような社会の理解と支持が、子どもたちの教育の質を高めることに繋がります。そしてそれが将来、地元福井で教職員を志す若者が増え、教育の質の向上、地域との連携強化、そして地域社会全体の活性化に繋がっていくものと考えます。

以上、長々と書かせていただきましたが、教職員の皆様におかれましては、日々学習指導はもちろん、子どもたちが楽しく安心して学校生活を送れるよう、様々な工夫を凝らしてくださっていることに深く感謝申し上げます。

授業準備、宿題の添削、面談、クラブ活動や委員会活動の指導など、多岐にわたる業務を、子どもたちの「わかった！」という瞬間のために、熱意をもって指導されている姿に、私たち保護者も大きな信頼を寄せています。

令和7年度からは第4期の福井県教育基本計画が始まります。

子供たち、教職員、保護者、地域の全ての人々が福井を愛し、パンフレットの表紙に描かれた「ふくい最高♪」の笑顔となっていていつまでも暮らしていけるよう、今後の教育委員会の取り組みにつきましてもPTAとして全面的に協力していきたいと思います。